

主体的に学びを深める児童生徒の育成

～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～



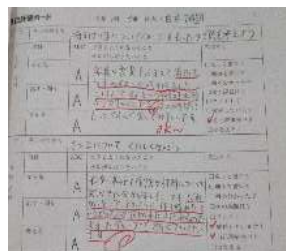
【課題設定の工夫】

- 題材との出会いの工夫
- 疑問の問題化
- 学びの連続性



【協働の場づくりの工夫】

- 目的の共有化
- 情報の共有化
- 教員のファシリテート



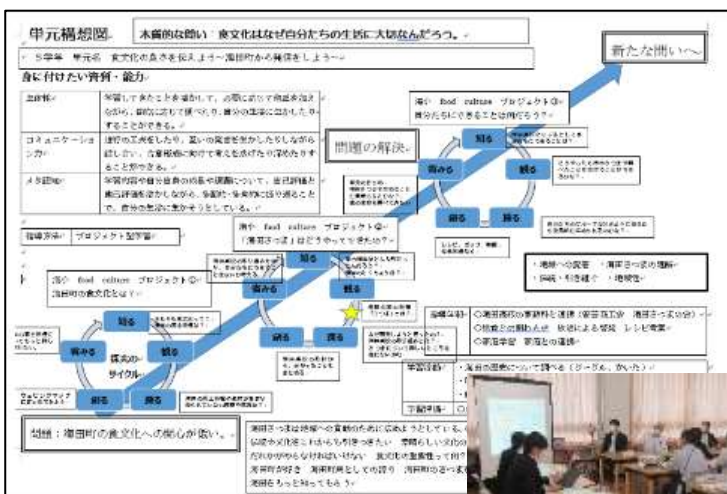
【振り返りの工夫】

- 学びの言語化
- 学びの転用



【単元構想図の作成】

- 単元の見通し
- 校内研修での全体交流



5年生 食文化のよさを伝えよう

～海田町から発信しよう～

目標

「食文化のよさ」について、自分で決めた課題について調べたり、調べたことを発信したりする活動を通して、友達とかかわりながら、人とかかわり合う力を身に付け、「食文化のよさ」を知ってもらうために何ができるか、どのような方法があるか考え行動することができる。

単元計画

探求のサイクル②

「海田さつま」はどうやってできたの？(14)

- ・昔の海田はどんな町だったのか調べよう。(知る)
- ・「さつま」について調べよう。(観る)
- ・海田高校に取材しよう(探る)
- ・海田高校の取材から分かったことをまとめて発表しよう。(創る)
- ・海田高校の取り組みや調べたことから「海田さつま」に対して関心をもち、それらをどのように広めていけるか考えよう。(省みる)



探求のサイクル③

自分たちにできることは何だろう？(14)

- ・自分たちができることを考えよう(探る)
- ・テーマを決めて、準備をしよう。(知る・観る)
- ・発信をしよう。(創る)
- ・自分たちの活動により、海田町の食文化の良さを発信できたか振り返る。(省みる)



成果(○) 及び 課題(●)

- 海田さつまについての問題意識をもち、自分事の課題として捉え、真剣に学習活動に取り組むことができた。また、学んだことを自己と結び付けて振り返り、自己の成長につなげることができた。
- 資質・能力の育成を目指すために、一人一人の学習のプロセスを評価することが必要だった。